予算問題

問 平成23年度予算編成は

答 住民の声・現場の声を反映

横田 孝穂 議員

【予算編成について】

問 予算の基本方針は。

村長 住民の声・現場の声を反映、行政改革、歳入の的確な確保及び新たな財源の創出、を基本的事項に、限りある財源を最大限に活用し、行政サービスをより一層レベルアップするための予算編成です。

問 新しい重点施策は。

村長 快適で安らぎのある生活環境を、支えあい健康にくらす地域福祉社会を、優れた資源と人を活かした活力ある経済を築く、を基本に、村内道路の改良・ゴミ集積場設置補助の増額、福祉医療費給付対象範囲の拡大や子宮頸がん予防ワクチン等接種の事業化、そばの里作り（そばへの転作補償から、そばガレット普及事業への補助）などです。

問 地域集落懇談会等の要望意見が反映されての予算編成か。

村長 道路や水路といったハード事業要望は大きいという印象です、道路改良事業は、６７００万円余りで、前年比１８００万円で38％ほど増額しました。きめ細やかな交付金事業を活用し、道路維持関係で１６００万円、水路整備関係で１２００万円余りを計上し少しでも地域要望に応えられる予算、投資効果や緊急性を吟味し、優先度を明確に配慮しました。

【農政について】

問 大北全体のカメムシ被害米は約６０００俵であるが、村のカメムシ防除対策は。

村長 農協ライスセンターの色彩選別機にかけられた被害米は60kg換算で約４４００俵あり村内全出荷量の約20％でした。適期の一斉防除を勧め、ほ場整備区域内80haをラジコンヘリによる一斉防除を計画中です。

問 品種により被害差が見られるが、他の品種対策は。

村長 あきたこまちが県の奨励品種であり、販売の大量供給が必要で、現時点では他品種への変更は難しいと判断しております。

【地籍調査事業について】

問 国土調査の進捗状況と今後の見通しは。

村長 今年度で22年を経過し約半分が終了しましたが、公図と現況が合わない区域や、登記所有者と実際の所有者が異なるなど、安易に境界の確定はできない状況が推測され今後30年以上を要すると推測します。人員体制の充実を図り、調査区域の拡大に取組みます。

問 調査済の面積差は。

観光農政課長 調査後55ha増（10・６％増）です。

問 調査済み地域への課税は。

村長 全地区終了後が前提ですが、理解が得られるならば早い段階で実施したい。

大北農協北部ライスセンター